

宮崎ロータリークラブ週報

no.42 | 発行 | 2023年5月30日 | 担当 | 興梠 淳哉・栗畑 秀哉



2022-2023 Theme



■ 前回の例会記録

第3381回 2023年5月23日(火)

【インターアクト】

宮崎学園高等学校 学校長 押方 修 様
” 教諭 伊東 望 様
” インターアクト(生徒4名)

出席状況報告

会員数(名誉会員3名を除く) 98名
例会出席会員数 68名
同上出席率 69.39%

■ 今回の例会予定

第3382回 2023年5月30日(火)

【ローターアクト】

宮崎ローターアクト 幹事
谷次 一研 様 (野村證券宮崎支店)

■ 次回の例会予定

第3383回 2023年6月6日(火)

【ゲスト卓話】

フリーアナウンサー
中西 可奈 様
(元KKB鹿児島放送アナウンサー)

* 誕生日祝・結婚記念日祝(親睦委員会)

■ 幹事報告

- ・週報、ポスティング紹介
- ・ロータリーデー海岸美化の報告 5月21日(日)
- ・新旧クラブ協議会のご案内
- ・本日は、例会終了後、臨時理事会を開催いたします。理事・役員の方は、例会終了後、前方役員席にお集まりください。

■ ビジター会員

浦和東ロータリークラブ 北野 大輔 会員

宮崎西ロータリークラブ 高宮 眞樹 会員



退会挨拶

栗原 勉 会員



Happy Box

池ノ上 克 会員

この度、宮崎県ユニセフ協会の会長職をお引き受けすることになりました。世界の子どもたちのために様々な活動を行っている公益財団法人日本ユニセフ協会の活動を賛助会員の会費によって支援しています。一般賛助会員は年間一〇五,000円、団体賛助会員は年間一〇一〇〇,000円で税額控除対象となります。今後はユニセフとロータリー活動との間にパートナーシップを組めればと考えています。

今後の皆様のご支援を願い、Happyをさせていただきます。



Happy Box

山田 剛 会員

5月21日(日)にフェニックスカントリーで開催された会長杯ゴルフコンペで、なんと言うことでしょうか、私が優勝してしまいました。私の実力ではおそらく最初で最後の出来事だと思います。一緒にラウンドしてもらい、楽しい一日を過ごすことができた川崎友裕さん、興梠さん、杉田さんに感謝です。喜びと感謝の気持ちを込めて、Happyさせていただきます。

■ 会長の時間



「少年自衛隊」への憧憬

小倉 和彦 副会長

(陸上自衛隊 高等工科大学 全国生徒育成会会長)

昭和45年4月、県立富島高校普通科に進学した私は同期のY君が同校に入学していない事を不思議に思い、親しい友人にその消息を尋ねたところ「Y君は横須賀の少年自衛隊に入隊したらしいぞ」聞かされました。

当時の私は横須賀が何処にあるかも、ましてや「少年自衛隊」の存在など全く見当も付かぬ九州の田舎育ちでしたが、ただ何となく「しまった。Y君に先を越された」との焦燥感だけが、53年経った今でも記憶の片隅に残っています。

昭和48年3月高校卒業後直ちに国分教育隊に入隊した私は、18歳の我々と幾らも歳が違わぬ小柄で元気なT班長が少年工科大学出身で高射特科(ホークミサイル)実射教育の為に渡米していたと知り、ここでもまた少年自衛隊に大いに興味をそそられた次第です。

爾後、習志野に所在する第一空挺団(落下傘部隊)から当時新宿区市ヶ谷台の32連隊に転属し、僅か4年間の自衛隊生活でしたが、陸海空自衛隊で最も過酷とされるレンジャー教育隊や、昭和50年に来日された元赤坂迎賓館に於けるエリザベス女王国旗塔列儀仗隊、また四谷聖ソフィア寺院にての駐日ベルギー大使葬儀等の国家行事に従事し、大学進学の間まで頂いたお陰で今日の私があると云っても決して過言ではありません。

その後帰宮し、大手不動産会社に職を得て、29歳で起業し40年の月日が流れましたが、私の少年自衛隊への憧憬は尽きることはなく、28年前に愚息が中学3年の夏休みのタイミングを見計らい「信介、このまま今の学校でいいのか?」と問題提起を致しました。

と云いますのも長男は中学受験をしており、高校へは無試験で進学できる中高一貫校の日向学院に通学していた為、中3受験生特有の緊迫感が全くなかったのです。

「ほかにどんな学校があるの?」と俣が聞き返してきたので、すかさず当時の自衛隊宮崎地方連絡部勤務の後輩に手配して貰った「少工校」のパンフレットを見せて「学校下見に行かないか?」と誘い、少年工科大学のある横須賀の武山駐屯地見学だけではインパクトが小さいと考えた私は「富士総合火力演習」を抱き合わせで提案したところ、俣の瞳がキラリと輝いたのを見逃しはしませんでした。

早速その後輩に「総火演」のチケット2枚を依頼し、市ヶ谷32連隊に勤務する先輩には私有車で羽田から東富士演習場の送迎をお願いして、ここに俣の「少年工科大学入校オペレーション」の幕は切って落とされたのです。

90式戦車砲弾の余韻覚めやらぬ翌日、宮崎地連から連絡を取って頂いた武山駐屯地南門を潜り憧れの少年工科大学本部隊舎に到着したところ、夏期休暇中の為か校内は閑散としており、偶然空挺教育隊同期のO1尉が当直司令に付いていたので学校の詳細な説明を受けることが出来ました。私には俣が初めて見る自衛隊駐屯地にあまり興味も示さず、ましてや大本命の少年自衛隊にも関心が今一つのように感じられ、正直なところ今回の企画は失敗かなと考えさせられました。

口数少ない帰路の機中で内心ドキドキしながら「信介受験どうする?」と尋ねたところ、「俺挑戦してみるわ」との余りに軽い返答に拍子抜けして、思わず快哉を叫んで合格する前から欣喜雀躍する親馬鹿ぶりに我ながら呆れた次第です。

在校間の俣は飛び抜けた成績ではありませんでしたが、ドリル部では部員の推挙で主将を務め指揮刀を華麗に操る姿に感動し、卒業式での皆勤賞受賞に家内共々涙しました。

私が憧れ果たせなかった夢を俣は叶え、木更津駐屯地第1ヘリ団勤務中に現地調達した可愛い嫁との間に元気な子供も2人授かり、充実した自衛官人生を恐らく謳歌しているものと思われませんが、因みに俣は2年前より熊本空港に隣接する高遊原分屯地の西方ヘリ隊に単身赴任中です。

歴史や人生にifはないそうですが、もし私が中3の時に「少年自衛隊」の存在を知っていたなら?もし合格して武山に来ていたなら?その後の私の人生は一体どうなっていたら?と見果てぬ夢は眠れぬままに69才の今夜も続きます。

俣の42期生徒入校時から、常任理事や副会長等を努めた「陸上自衛隊高等工科大学全国生徒育成会連合会」の会長職を本年1月1日に拝命し、入校式や開校祭、更に卒業式と年3~4回の「武山詣」を27年以上続ける中で、学校長や理事の皆様方から「毎回遠路九州からご苦労様です」と労いの言葉を頂きますが、感謝するのは私の方で来訪する度に生徒達の澆刺とした態度に50年前の自分や、27年前の俣と重ね合わせて往事を振り返り「今回もご招待頂き有り難うございます」と、心の中で呟いている次第です。

私が思うに、少年工科大学や自衛隊の人間教育の素晴らしさは「自己研鑽」及び「自己犠牲」そして「自己完結性」の飽くなき追求に尽きるのではないかと考えます。

私が50年前に暗誦した陸士の心構えの「使命の自覚」「個人の充実」「責任の遂行」「規律の維持」「団結の強化」は今も色褪せることなく生徒の胸中に連綿として受け継がれており、卒業式で「風雨に耐えて健やかに伸び育ちたる若桜、咲き出る色は変わるとも心は一つ日本の、御国の護り揺るぎなく、我等は少年自衛隊」と、4番校歌を生徒と共に歌いながら溢れる涙を堪えきれぬ自分を恥ずかしいと思ったことは、今日まで只の一度もありません。

さて20数年前3曹任官間もない俣が帰省した夏、共にビールグラスを傾けながら「ところでさ、信介はどのタイミングで少年工科大学入校を決意したんだい?」と、私が一番知りたかった疑問を尋ねる機会がありました。

すると俣は「親父と空挺同期だった当直司令のO1尉から案内して頂いた少年工科大学本部隊舎屋上から遠望した、相模湾越しの富士山に感動したからだよ」とさりと云ってのけ、改めて霊峰富士の偉大さに驚嘆し「何だ、嵌められたのは結局俺だったのかい!」と思わず苦笑したところでした。

結びに、先日もこの席で申し上げました通り、本校は令和10年度より女子生徒受け入れに伴う定数増員を予定しており、陸海空自衛隊の垣根を越えた宇宙・サイバー要員育成校としての大変革途上にありますので、子供さんやお孫さん、或いは入校適齢期の中学生が皆様の身近におられましたら、国防と云う崇高な使命に携わる将来の職業選択の一つとして「陸上自衛隊高等工科大学」をご検討賜れば幸甚に存じます。

本日は短く拙い副会長の時間でしたが、皆様のご静聴に心より感謝申し上げます。



■ インターアクト



皆さんこんにちは。宮崎学園インターアクト部です。本日はこのような発表の場を設けていただきありがとうございます。私たちは、「誰もがともにハッピーに！」を目指して、自分たちだけでなく、たくさんの人たちと関わりを持ちながら、日々活動しています。

今回はこんな素敵なバッグを販売している、Pamodziという活動について発表したいと思います。

Pamodziの主な活動内容は、「マラウイ」という国の現地団体にバッグをオーダーして、販売するという活動です。顧問の伊東先生がマラウイに行ったことがきっかけでこの国とのつながりがスタートしました。

ところで皆さんはマラウイという国を知っていますか。まず、マラウイとはどんな国なのかについて紹介します。

マラウイは、アフリカの南東部に位置する国で、面積は日本の3分の1ほどの11万8000km²(キロ平方メートル)、人口は日本の約6分の1の1900万人、言語はチェワ語です。ちなみに活動名のpamodziはチェワ語で「ともに」という意味があります。

国旗は黒・赤・緑の三色旗に赤い半円の太陽を置いたもので、それぞれ色はこのような意味があります。

国旗の緑がさすように、マラウイは自然豊かな国で、一部が世界遺産にも登録されているマラウイ湖は、鹿児島県と沖縄県を除いた九州とほぼ同じ大きさがあります。この湖は国民の重要な食糧源になっています。

また特産物にはサトウキビやコーヒー、紅茶、たばこなどがあります。特に紅茶はアフリカで第2位の生産量を誇り、現地の人にも好んで飲まれていて、日東紅茶やタリーズなどでも使用されています。

その一方で、マラウイは世界最貧国のひとつでもあり、国民全体の約74%の人は1日1ドル以下で生活をしていて、生活水準がとて低くという現状があります。

国民の80%が農業に従事していて、特産物を含む農作物が全輸出量の8割を占める中、これらは国際市場の情勢の影響を受けやすいため、安定した収益を得ることができません。

またマラウイは、南部アフリカにおける学力調査で、14か国中読み書きは13位、計算は14位であると発表されました。マラウイの就学率は全体の8割程度であり、またその3割は小学校高学年で中退してしまいます。この結果、読み書きができず、安定した職へもつけません。

加えて、WHOのデータによる水道普及率、安全な飲料水利用率、トイレの普及率はこのようになっていて、ランキングからわかるように、ライフラインの整備も不十分であり、このようにマラウイは、様々な面で多くの問題を抱えているのです。

この現状を知った私たちは、何とかしたいと考え、まず「トイレ事情」に目を向け、布ナプキン制作と、水洗トイレ普及プロジェクトを2016年にスタートさせ、その資金

Pamodzi!ともにハッピーに!

宮崎学園高等学校 学校長 押方 修 様
” 教諭 伊東 望 様
” インターアクト(生徒4名)

集めとしてPamodziを始めました。

布ナプキンは、マラウイの雨季と乾季に分かれている気候の元に暮らす人のニーズに合っていないませんでした。雨季で乾かすことができなかつたり、乾季で洗うことが難しかったり、したため、実現は困難でした。水洗トイレの普及は、電気や水などのライフラインが行き届いていなかったため、設置することは不可能でした。このように私たちの計画は、現地のニーズや環境とずれがあったため、断念することになりました。

そこで一度Pamodziの活動をストップさせ、勉強会などに参加し、勉強を重ねていく中で、自分たちが良かれと思うのではなく、相手の立場に立って考えた活動の大切さに気が付き、そこから本格的にビジネスとして再開させました。

私たちはwhat's upというアプリを使って「ルソラマンジャ」や「ペンジャーニ」という現地団体とつながりを持ち、これらの団体に商品をオーダーしています。実際に私たちが英語で電話をしている様子をご覧ください。

マーケットに向かうまでの交通費などもこちらが負担しています。メールやテレビ電話で布を選びながら商品チェックまで行います。最初はあったことのない相手と大きなお金のやり取りをすることに不安が大きかったですが、今ではマラウイアンとい関係構築ができています。

これがオーダーしたバッグです。

日本にはない柄で、見ていて元気になるようなバッグとなっています。私たちはこれらのバッグに、宮学とマラウイの頭文字の「m」を刺繍しています。この刺繍することで私たちの中でバッグに愛着がわきました。

このようにPamodziを進めていこうとしたとき、世界中で新型コロナウイルスが流行し、それによる航空便の減便や、物価の高騰で、マラウイからバッグが届かないという問題が発生しました。

そんな状況で私たちは、ピンチはチャンス!こんな時だからこそその活動を始めました。

そんな時、愛媛県のフェロークリエイトさんにご縁が繋がったのです。この会社はB型事業所で、障がいのある方がマラウイ布を使ってバッグ制作をしてくださっています。

フェローさんとZOOMで交流会を行ったとき、自分たちの作ったものが売れることで、やりがいや自信、さらなる挑戦に繋がったなど利用者さんからの声をいただき、自分たちの活動が役に立っているということを実感しました。

またアフリカの大自然で育った、サステナブルなスペシャルティコーヒーを通して得た売り上げを100%アフリカの子供たちの給食支援につなげる活動をしている、warm heart coffeeさんの勉強会に参加した際に、コ



ロナ禍での悩みを相談したところバッグを提供していただけでもできました。

また現在は、川南の事業所「ちへいせん」さんとも、新たに活動を始め、商品制作、販売に取り組んでいます。

このようにたくさんの方々とのつながりを大事にしなが、活動してきました。

そして、様々な人とつながりを持っていくうちに、相手のことをもっと理解したいという気持ちが芽生え、宮崎から手話歌を広める活動をしている、つばささんに手話歌を指導していただきました。

それでは、私たちの手話歌をご覧ください。

現在の私たちの目標は、「私たちが日本から持続的なオーダーをすることで、相手が収入を安定させることができるようになること」です。

これをクリアするためには、継続的な販売が必要です。そのために認知度向上を目指してイベントに参加し、バッグを販売したり、インスタグラムでの発信や販売をしたりしてきました。

今年にはさらに、新しいつながりを求めて、より多くのマルシェに参加して、Pamodziの商品の魅力を発信していきたいです。

今回は私たちの活動を通して学んだことについて発表しました。

高校生だからこそできること、今だからできることを想像し、そのすべてに全力で取り組んでいきます。

私たちはこれからも、「Pamodziともにハッピーに！」をコンセプトに今よりもっと活動を広げていきたいです。

ご清聴ありがとうございました。

■ 第3回 会長杯ゴルフコンペ

2023年5月21日(日)フェニックスカントリークラブにて



本年度(2022~2023)宮崎ロータリークラブの目標

- 1 70周年記念事業の開催と成功
- 2 池ノ上ガバナーエレクトの活動支援
- 3 会員数100名以上の堅持
- 4 例会出席率90%以上
- 5 ロータリー財団寄付一人当たり100ドル以上
- 6 米山奨学会寄付一人当たり10,000円以上

<会 長> 川崎 建作
<副 会 長> 小倉 和彦
<幹 事> 河東 太浩
<会報委員会> 赤石 裕一郎

■例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)
■例会場/宮崎観光ホテル(☎27-1212)



Rotary



■事務局 宮崎市宮田町13番8号(田崎ビル) TEL:24-4872 FAX:22-0288
URL:http://miyazaki-rc2730.jp E-mail:m-rotary@miyazaki-rc2730.jp